

「ここネット」の道標（みちしるべ）

2022.11.4

前木本会長・村上事務局長の事業内容・心情を踏襲し、会員の方々と新役員の方々からのご協力を戴きながら、「ここネット」の目指す道標として、次の内容の事業を「和を以て貴しとなす」を大切にしながら進めていこうと考えています。

家でも園でもセンターでも、3歳までに質の高い子育て(保育)を！

「012・ストロング」(スターティング・ストロング)

OECD では、年齢の低い乳幼児期に質の高い教育・ケアを提供すれば将来に社会的経済的効果を生んだとするエビデンス、さらに脳科学の発達により「スターティング・ストロング」という政策提言を加盟国にしています。日本でもその提言をもとに「子ども・子育て支援制度」や「保育・教育の無償化」が実施され、さらに「保育所保育指針の改定」にも大きく影響を及ぼしています。

子育て支援センターの多くは園と併設しています。私たちは「012・ストロング」を合い言葉に園でも家でもセンター（ひろば）でも、3歳までに質の高い子育て（保育）と一緒に考え提供し、0歳からの人間教育に取り組みます。

この実践の輪が広がることにより、子どもはもちろん、親も子どもと遊ぶ喜びや幸せを感じることができ、ひいては児童虐待や不適切な養育(マルトリートメント)の予防にもつながると信じています。

① 「質」の高い子育て(保育)のためのEAPプログラムの開発と実践

- ・母親（父親）が元気であること E：エンパワーメント
- ・応答的な関わり合い（サーブ&リターン）があること A：アタッチメント
- ・発達に応じた楽しいあそびをすること P：プレイイング

「ここネット」として、どういった親子での「あそび」や「ふれあい」が子どもの認知や非認知能力を伸ばし引き出せるのか。さらに親も子どもと向き合う喜びや活力を感じるのかを研究、実践、開発していきます。

② 『共同養育』の場(子育てをシェアする)：子育て支援センターの使命

合い言葉 「TEAM子育て」

- ・仲間がいる（脱・ワンオペ 脱・ぼっち子育て） T：トゥギャザー
- ・身近な専門家がいる（保育士・栄養士・看護師等） E：エキスパート
- ・支え合う・助け合う空気がある A：エイド
- ・子育てモデルがある（0歳～就学前の園児の保育） M：モデル

「ここネット」は、「ひとりで背負わない子育て」「何でも相談できる子育て」の空気を地域に社会に送り込み続けたいと思います。園としてセンターとして「共同養育で子育てをシェア」する環境を整えていきます。

③ 調査研究の実施（委員会活動）

- ・自治体ごとの子育て支援センター実施状況調査
- ・園の保護者とセンター利用者で「子育てに関する意識」の差格調査
- ・子育て支援センター利用者から日常の保育の見え方調査
- ・子育て支援センター利用者の就園にむけての判断基準の調査

「ここネット」は、全国のネットワーク使って調査研究を行っていきます。
支援センター（拠点）仲間同士の情報共有はもちろん、行政や国にも政策提言ができるようにしていきます。

以上
柳溪会長・中川副会長 共作